

明治 150 年企画事業の紹介

常務理事・事業化推進部門担当 辻田 満

平成 30 年（2018 年）が明治改元の布告から満 150 年目に当たるので、政府では昨年末に、各府省庁連絡会議において、「「明治 150 年」関連施策の推進について」を取りまとめ活動を開始することになりました。

施策の方向性として

○明治以降の歩みを次世代に遺すこと

○明治の精神に学び、さらに飛躍する国を目指すこと

となっており、各機関においては、広報・情報の発信や民間を含めたような取り組みが推進されるよう機運を高めていくこととしています。

土木の世界では、土木という言葉の使用や学問としての土木工学がスタートしたのは、まさに明治期からであり、土木という言葉が案外知られていないのも歴史の浅さにあるのかもしれませんが。そのため土木の歴史と文化を私たち自身が再認識するとともに、未だ地域に埋もれている多くの事蹟を発掘して整理していくことが出来れば、土木・どぼく・シビルエンジニアリングへの国民の理解促進にも役立っていくのではと思います。

このような取り組みは、各地で組織的に行われるでしょうが、CNCP では定常的な事業に加え、新たに「CNCP 活動を面白くしていく取り組み」として、会員・関係者が身近な土木の歴史と文化を発掘し、それを集積して情報交流するという“お楽しみプロジェクト”を目指したいと思います。どぼくの文化や歴史は、人気番組の「プラタモリ」でも多く取り上げられていますし、ダムマニアとダムカード、社会科見学ツアーなど国民の多くが関心を持っていることがわかります。そのボリュームは膨大であり、無限です。

今回ワーキングメンバーを募り CNCP としての「明治 150 年企画」に取り組みます。ワーキングではまず多くのアイデアを出し合い、その中から幾つかのアイデアを絞り込んでその具現化に取り組みます。そのワーキング活動を進める中で講演会やワークショップを開催すると共に CNCP 通信を通じてそれらの情報発信を進めて参ります。多くの皆様方のご参加を期待しております。詳しくは別途事務局から会員およびサポーターの皆様へ募集要項をお送り致します。

